

九州支部

長崎大学第2病理 行徳 豊

昭和50年1月より昭和56年5月までの原発性肺癌剖検例は79例、剖検率70%、死因は腫瘍死80%、合併症死20%。転移臓器は肺、肝、副腎、骨の順で高令者の扁平上皮癌、大・小細胞癌で転移率が低かった。又、肝転移無症例のⅠ・Ⅳ期での生存率が良かった。

23. 肺癌におけるAdriamycin気管支動脈内注入法—主として縮小効果について—

久留米大学第1内科 林 市朗
安倍俊男, 林 俊二, 光武良幸
市川弥生, 田中二三郎
市川洋一郎, 加地正郎

原発性肺癌に対する気管支動脈内制癌剤注入法(以下BAI)は広く行なわれており、その有用性も高い。今回、私達はアドリアマイシン投与によるBAI効果を胸部X線上の腫瘍陰影の長径とそれに直角に交わる最大径の積により、BAI前後で比較した。又、BAIと静脈内投与における血中濃度を測定した。血管増生度についてはhypervascular typeに高い有効率を認め、又組織型別では小細胞未分化癌と扁平上皮癌に効果例が多かった。42例の原発性肺癌で有効であったものは48%に達し、これは放射線療法で2,000~3,000Rに相当するものであり副作用の面から考えてもBAIはかなり有用な治療法である。又BAIの血中濃度より組織内吸着性が推察され少なくとも3~4週間隔ではアドリアマイシンの蓄積は起こらないものと思われた。

24. 癌性胸膜炎に対するCarboquone療法の検討

国療大牟田病院 徳永尚登
藤野和馬, 平井 裕, 黒岩 達
半井一郎, 石橋凡雄, 篠田 厚

今回我々は、癌性胸膜炎に対してCarboquone, Cylosideの全身投与のみによる治療を行った。その結果胸水の消失及び減少を認めたものは10例中6例あり、従来の抗癌剤の全身化学療法単独による成績に比べ良好であった。

25. Bestatinのヒト末梢血monocyteにおよぼす影響について

熊本大学第1内科

樋口定信, 安藤正幸, 福田安嗣
堀尾 直, 徳臣晴比古

Bestatinのヒト末梢血monocyteにおよぼす影響をNBT還元能を示標にして検討した。その結果NBT還元能を上昇させる為には、Bestatinの血中濃度を100 γ /ml以上にする必要があると考えられた。

26. 肺扁平上皮癌に対するBA(BLM+ADM)療法とBAA(BLM+ADM+ACNU)療法

琉球大学医学部検査部

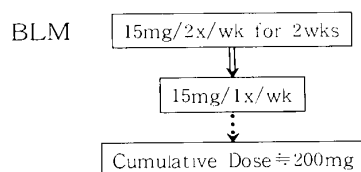
外間政哲

同 第1内科 金城勇徳
国立沖縄病院内科 久場睦夫
〔目的〕肺扁平上皮癌に対する、BA(BLM+ADM)療法、さらにBAA(BLM+ADM+ACNU)療法というわれわれ独自の併用方式による臨床成績について報告する。

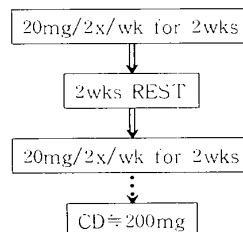
〔対象症例〕組織学的に扁平上皮癌と診断され、かつⅢ期以上の手術不能と判定された未治療症例である。BA療法12例、BAA療法3例である。

〔方法と成績〕

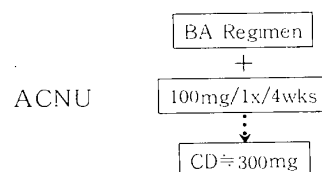
1) BA Regimen



ADM



2) BAA Regimen



BA療法を施行した12例中5例に有効であった。その中で最長生存期間は60週で、5例のMSTは38.6週であった。

BAA療法を施行した3例中1例は高度のSVC症候群を伴っていたが腫瘍陰影とともに急速に消退し、BA療法に優る著効を示した。

副作用については脱毛は殆んど必発で、心肺毒性は皆無であったが、白血球減少がとくにBAA療法で顕著であった。ただし可逆性であった。

27. 肺癌に対するLimited operationの臨床的検討

宮崎医科大学第2外科

米澤 勤

肺癌に対してLimited operationを施行した8例と、stage Iまでの症例でLobectomyを施行した11例とを対比検討した結果、その予後において、追跡期間は短い、現時点では両者の間に差はないと考えられ、肺機能温存の面から、十分に適応症例を含め、術後合併療法を行えば、Limited operationも、根治性を期待できる手術法として考慮したい術式である。

28. 肺癌に対する気管支形成術症例の検討—とくに適応と

術式について—

長崎大学第1外科 綾部公懿
石橋経久, 江口正明, 高田俊夫
川原克信, 内山貴堯, 大曲武征
中村 譲, 三浦敏夫, 釘宮敏定
教室で経験した肺癌に対する
気管支形成術29例について, 癌
占居部位, 組織型, リンパ節転
移, 予後, 術後再発型式, 術後
合併症等の因子を分析し, その
手術適応, 術式を検討し報告し
た。

29. 興味ある胸部X線像を呈し
た直腸癌肺転移の3例

熊本大学第1内科

島津和泰, 松田宏史, 高野卓二
樋口定信, 上妻和夫, 岳中耐夫
杉本峯晴, 福田安嗣, 安藤正幸
徳臣晴比古

症例1は左舌部無気肺を呈し
たendobronchial metastasis, 症
例2, 3は直腸癌切除後5年以上
経て出現したlate metastasisで,
症例2は個々の陰影の性状が異
なり, 症例3は対側肺にasper-
gillomaを伴っていた。

30. 転移性肺腫瘍に対する外科
療法

長崎市民病院外科 中田剛弘
寺田正純, 林田政義, 佐伯壮六
同 内科 中野正心, 池辺 璋

当病院で経験した転移性肺腫
瘍の手術例は6例で, 27才から
73才であった。大腸直腸4例,
腎臓・子宮が各1例で, 手術々式
は, 肺葉切除3例, 区域切除3
例であった。1例は転移巣を原
発と考え, 1例は原発巣がはっ
きりしないもので, 積極的な術
前の検索が必要である。

31. 病期別にみた肺癌外科療法
成績

九州大学第2外科

本広 昭, 吉田猛朗, 安元公正
古川次男, 中橋 恒, 井口 潔
国立病院九州がんセンター

原 信之

1974年4月より, 1980年12月
までの, 九大2外科における手
術症例(193例)につき, 病理学
的病期別に予後を検討し, 報告
した。Stage Iの5生率は47%で,
Stage III・IVとの間に有意差を認
めた。Curative・Relative cura-
tive・Non-curative opeの間にも
有意な差を認め, Curative ope
における4生率は42%であった。
肺野型早期肺癌(20例)では良好
な成績を認め, その4生率は73
%であった。肺葉切除例と肺全
摘例を比較すると, 肺葉切除例
の方に良好な予後を認めた。又,
無症状にて発見された場合の方
が, 症状発現により発見された
場合に比べ, 良好な予後を認め
た。

32. 肺癌手術例における組織型
別の予後について

九州大学第2外科

中橋 恒, 吉田猛朗, 古川次男
安元公正, 本広 昭, 井口 潔
国立病院九州がんセンター

原 信之

今回我々は過去約7年間当教
室で施行した試験開胸例を除く
肺癌切除例201例を対象とし, 組
織型別の予後について検討した。
年令分布は60才台48%と最も多
く, 50才台がこれに次いで多かつ
た。組織型別生存率は3年生存
率で扁平上皮癌48%・腺癌32%・
大細胞癌44%であった。扁平上
皮癌・腺癌のI期例における3
年生存率は68%・42%と扁平上
皮癌が予後良好であった。腺癌・
扁平上皮癌について分化度によ
る予後を見ると高分化型が予後
良好であったが, 中～低分化型と
比し有意差はなかった。小細胞
癌手術例8例中2年以上生存例
を2例認め, 両者ともT₁N₀M₀で
あった。

印象記

第19回日本肺癌学会九州地方
会は初めて沖縄において正義之
琉球大学外科教授会長のもとに
開催された。32題の一般演題と
一つの特別講演があった。

特に印象的であったのは, 源
河氏の「沖縄県における肺癌診
療の現況」の特別講演であった。
沖縄は1978年に胃癌死亡率を肺
癌が追い越した日本で初めての
県である。男の癌死は, 肺21.4
%, 胃19.7%, 食道12%, 肝8.4
%の順であり, 女子では子宮13.4
%, 胃12.0%, 肺9.7%の順であ
る。これをみると, 扁平上皮癌
の系統が多いことが判り, 興味
ある事実である。肺癌でも扁平
上皮癌が53%を占めている。集
検発見例が36.2%と多いことは,
本土が見習うべきことであろう。
食道癌, 肝癌が多いのは泡盛の
影響であろうか?

沖縄では, 油脂類, 肉, 緑黄
野菜の摂取量の多いことが, 欧
米に近い癌の種類となっている
のだろうか。癌の疫学上非常に
興味ある成績だと感じた。

(大田満夫 記)